


## ステップ4

# リスク低減対策の検討と実施

### ■リスク評価に従い、リスク低減対策を検討し、実施しましょう。

- 誰が行うか  事業者や現場管理者が中心になって
- 許容可能なリスクレベルを超えているものについて、リスク低減対策を検討します。
- リスク低減対策の検討は、次の順番を参考に実施して下さい。
  - (1) 機械など本質安全システムの導入。
  - (2) 保護カバーの検討。
  - (3) 作業の仕組みの改善。
  - (4) 保護具の使用を検討。
  - (5) 安全作業基準や技能教育などの対策。
  - (6) KY活動。
  - (7) 安全標識の設置などの検討。

#### [リスク低減対策の例]

No.	リスク低減対策
1	①作業前に整理、整頓する
	②歯の接触予防装置を使用する
2	①割刃を使用する

- リスク低減対策の検討後、再度リスクの見積り・評価を行い、許容可能かどうかを確認します。

#### [対策後のリスク見積り・リスク評価の例]

No.	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		対策後のリスク評価(予測)
		可能性	重大性	リスクレベル
1	①	○	△	2
	②	○	○	1
2	①	○	△	2

上記のリスクへの対応は、次のように考えることができます。


リスクレベル	リスクへの対応
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)

- 改善にあたり考慮すべき事項を検討し、優先順位を決め、リスク低減対策を実施して下さい。

## ステップ5

# 内容の記録

### ■ステップ1から4の内容を記録し、保存して下さい。

- 誰が行うか  事業者や現場管理者が中心になって
- この記録は、リスクの低減対策の実施や今後のリスクアセスメントの資料とします。

# リスクアセスメント報告書

対象作業名 : 丸のこ盤作業

実施者氏名 :

報告書作成日 :

No.

No.	危険要因の内容		危険要因の洗い出し		リスク見振り(現状)		リスク評価(現状)		リスク低減対策		対策後のリスク見振り(予測)		改善に当たり考慮すべき事項	優先順位
	作業名	内容	～するとき	災害に至るプロセス	可能性	重大性	可能性	重大性	可能性	重大性	可能性	重大性		
1	丸のこ運転スイッチを入れる	丸のこ	スイッチを入れたとき	災害に至るプロセス ～したので 丸のこが脚にあったスハナに触れて	△	△	3		①作業前に整理、整頓する ②歯の接触予防装置を使用する	○	△	2	①、②両方を行う	
2	加工材を送給する	丸のこ	加工材を送るとき	加工材が反ばって 体に激突する	×	×	5		①削刃を使用する	○	△	2		
		丸のこ	窓板と丸のこの間の端材を棒で除くとき	端材が跳ね返り 体に当たる	×	△	4		①丸のこを止めてから取る	○	○	1		
		丸のこ	丸のこが出が少くない状態で送給し	加工材が浮き上がって反ばつし 体に激突する	×	×	5		①丸のこの出を適正にする ②削刃を使用する ③自動送り装置を取り付ける	△	△	3	①、②を併用し、残留リスクを小さくする ○、△、2	1
		丸のこ	長い加工材を送給し	加工材が浮き上がって反ばつし 体に激突する	×	×	5		①補助テーブルを使用する ②自動送り装置を取り付ける	○	△	2		
		丸のこ	手で加工材を送給し	この歯に触れて 切削する	×	×	5		①歯の接触予防装置を使用する ②自動送り装置を取り付ける	○	△	2		1
		丸のこ	手で端材を除こうとし	この歯に触れて 切削する	×	×	5		①除去棒を使用する ②丸のこを停止してから除く	△	△	3		2
3	停止スイッチを押す	丸のこ	丸のこが停止しないうちに手を出し	この歯に触れて 切削する	△	×	4		①歯の接触予防装置を使用する ②ブレーキをかけ、丸のこの停止を確認する	○	△	2	①、②両方を行う	

## リスクの評価基準

災害の可能性	記号
かなり起こる	×
たまたま起こる	△
ほとんど起こらない	○

## 災害の重大性

重大性ランク	記号
極めて重大	×
重大	△
軽微	○

## リスクレベル

リスクの見振り	リスクレベル
××	5
×△、△×	4
○×、×○、△△	3
○△、△○	2
○○	1

## リスクへの対応

リスクレベル	リスクへの対応
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない (残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない (残留リスクあり)